

2021年4月21日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

## 2021年3月 マンスリーレポート

集計企業数 55 社

## ①売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	61,895,220 万円	100.0%	97.0% (99.8%)	60,586,801 万円	96.3% (98.7%)
食 料 品	53,606,495 万円	86.6% (87.8%)	96.5% (101.2%)	52,424,387 万円	95.7% (100.1%)
農 産	8,065,306 万円	13.0% (13.1%)	99.1% (105.0%)	7,888,986 万円	98.2% (103.7%)
水 産	5,094,896 万円	8.2% (8.2%)	100.8% (104.6%)	4,975,565 万円	99.5% (103.3%)
畜 産	6,777,344 万円	10.9% (11.4%)	95.4% (102.0%)	6,622,558 万円	94.7% (100.7%)
惣 菜	6,339,869 万円	10.2% (10.6%)	104.8% (102.4%)	6,182,949 万円	103.5% (100.9%)
日配食品	11,983,842 万円	19.4% (19.4%)	95.5% (99.6%)	11,728,367 万円	94.7% (98.5%)
加工食品	15,345,237 万円	24.8% (25.3%)	92.2% (98.9%)	15,025,963 万円	91.5% (97.9%)
生活関連	3,610,030 万円	5.8% (5.6%)	93.1% (89.8%)	3,529,825 万円	92.7% (89.3%)
衣 料 品	1,290,003 万円	2.1% (1.6%)	105.8% (81.7%)	1,271,281 万円	106.9% (82.6%)
そ の 他	3,388,692 万円	5.5% (4.9%)	106.2% (94.0%)	3,361,307 万円	107.0% (94.0%)

## ② 数 値

全店総売上高	61,895,220 万円	店舗数	5,056 店舗
総売場面積	9,964,732.3 m <sup>2</sup>	総従業員数	269,307 人

店舗平均月商	12,241.9 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,036.0円 (101.5%)
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	6.2 万円 (5.9万円)	平均売場面積	1,970.9 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	20.5 万円 (19.4万円)	パート比率(前月)	76.3% (76.9%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 《 全体概況 》

- ・ 3月の天候概要について、気温は全国的にかなり高く、北日本・東日本・西日本では、1946年の統計開始以来、3月として最も高い記録を更新した。これにより桜の開花も各地で1953年の統計開始以来最も早い開花日を更新した。降水量は、北日本と東日本の太平洋側で多く、西日本の日本海側と沖縄・奄美では、日照時間が多かった
- ・ 生鮮物の相場状況について、農産物では、野菜全体は中旬から下旬にかけて下落し、トマト、きゅうり、キャベツ、レタスなどのサラダ野菜が安値で推移、じゃがいも、玉ねぎ、にんじんなどの土物類は高値で推移した。果物は、全体では国産、輸入ともにほぼ前年並みで推移した中、いちごの相場がやや高値で推移し、りんごは安値で推移した。水産物は、卸売市場への総入荷量は前年同月よりやや減少し、卸売価格はやや強含みとなった。畜産物では牛肉と鶏肉が高値であった
- ・ 土・日・祝日の合計は8日で、前年同月と比べ2日（日曜1日減、祝日1日減）少なかった
- ・ 新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は3月上旬から増加が続き、大阪や兵庫では中旬以降急拡大した。また、変異株の感染者も増加傾向が続いた。1月に出された緊急事態宣言は、大阪、兵庫、京都、愛知県、岐阜県、福岡県の6府県は2月28日をもって解除されたが、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県等の4都県については3月21日まで延長された
- ・ 前年は小・中・高校の一斉休校開始による食料品の需要急増や、紙製品類・衛生用品など日用品の特需があったため、本年はその反動減が見られた

## 《 商品動向 》

### ○農産

- ・ 気温環境により、野菜では、きゅうり、レタス、ブロッコリーなどサラダ野菜が好調、白菜やきのこ類など鍋野菜が不調であった
- ・ スナップエンドウなど豆類が好調であった
- ・ 相場環境により手頃な価格が打ち出しづらかった土物類については、好調・不調の評価が分かれた
- ・ 国産果物では、みかんを中心とした柑橘類が好調、りんごは販売価格の下落により売り上げが不調、いちごは好調・不調の評価が分かれた
- ・ 輸入果物では、バナナとパイナップルの動きが良く、柑橘類の動きが鈍かった

### ○水産

- ・ 家飲み需要の増加もあり、刺身や刺身の盛り合わせが好調であった
- ・ 鯛、サワラ、ホタルイカなど旬の食材の動きが良かった
- ・ 海藻類は、好調・不調の評価が分かれた
- ・ 前年特需となった塩干類と冷凍魚に反動減がみられた

### ○畜産

- ・ 前年特需となった豚肉と加工肉に反動減がみられた
- ・ 手頃な価格の輸入豚肉と挽肉の動きは良く、和牛や国産豚肉、国産鶏肉は相場高による販売価格の上昇もあり動きが鈍かった

### ○惣菜

- ・ 弁当や寿司などの米飯類が好調であった
- ・ 天ぷらや唐揚げなどの揚げ物類や、焼き鳥、中華惣菜が好調であった
- ・ タラの芽や筍、菜の花など旬の食材を使用した商品の動きが良かった

### ○日配食品、加工食品

- ・ 前年特需となった商品カテゴリーの中でも特に、納豆、麺類（チルド麺・乾麺・パスタ）、冷凍食品、調味料、乾物、缶詰・瓶詰、米に反動減がみられた
- ・ 気温環境により、アイスクリームと飲料が好調であった
- ・ ヨーグルトや和菓子、紅茶が好調であった
- ・ 家飲み需要により、ビールが好調であった

### ○ひな祭りの動向について

- ・ ひな祭りのマーケットは、出店地域によって好調・不調の評価が分かれた
- ・ 水産部門では、ちらし寿司や手巻き寿司用商材が好調となり、惣菜部門においては、ちらし寿司と手まり寿司が好調であった

### ○ホワイトデーの動向について

- ・ バレンタインデー同様、当日が日曜日だったため、全体の動きとして概ね不調となった

### ○お彼岸の動向について

- ・ ぼたもちが好調であった
- ・ 手土産ギフトや発送ギフトなど、お彼岸用ギフトの動きが良かった